

ESG テーマ投融資および脱炭素ファイナンス枠における 2030 年目標の設定について

日本生命保険相互会社（社長：清水博、以下「当社」）は、資金提供を通じて企業の ESG 取り組みをさらに後押しすべく、これまで掲げていた ESG テーマ投融資および脱炭素ファイナンス枠※の数量目標を拡大し、新たに 2030 年目標を設定しました。



当社はこれまで、ESG テーマ投融資 1.7 兆円（2017-2023 年度）および脱炭素ファイナンス枠 5,000 億円（2021-2023 年度）の目標を掲げ、グリーンボンドやグリーンローン、ソーシャルボンド、トランジション・ファイナンスなど、さまざまな投融資を実施してきました。その結果、2022 年 12 月末時点での累計投融資額は、ESG テーマ投融資全体が約 1.78 兆円、脱炭素ファイナンス枠が約 5,200 億円となり、約 1 年前倒しで目標を達成しました。

今後、企業の ESG 取り組みを後押ししていくべく、テーマ投融資を一層拡大するとともに、テーマ投融資を通じた社会へのアウトカムの創出に積極的に取り組み、その計測・管理についても強化します。

これらの取り組みを通じて、契約者利益の拡大とともに、社会課題の解決にも貢献してまいります。

※：従来取り組みを進めてきたグリーン・ファイナンスに加え、トランジションやイノベーションなどへのファイナンスも対象とした「脱炭素ファイナンス枠」を 2021 年度に設定しました。詳細につきましては、以下のプレスリリースをご参照ください。<https://www.nissay.co.jp/news/2021/20220317b.pdf>

以上

<参考：ESG テーマ投融資事例>

<p>ニッセイ・グリーンローンの実行（2022年9月）</p> <p>三井不動産プライベートリート投資法人に対し、当社初のニッセイ・グリーンローン（20億円）を実行しました。当融資による調達資金は、グリーンビルディングの取得資金のリファイナンスに充当されます。</p>	<p>関係の深いSDGs目標</p>  <p>提供：三井不動産プライベートリート投資法人</p>
<p>トランジションボンドへの投資（2022年5月）</p> <p>九州電力株式会社が発行するトランジションボンドに26億円を投資しました。トランジションボンドとは、脱炭素社会の実現に向けて長期的な戦略にのっとり、着実な温室効果ガス（GHG）排出量削減の取り組みを行う企業に対し、その取り組みを支援することを目的とした債券です。当債券発行による調達資金は、高効率LNG火力発電所の開発および既存火力発電所の休廃止に充当されます。</p>	<p>関係の深いSDGs目標</p>  <p>提供：九州電力株式会社</p>
<p>ブルーボンドへの投資（2022年10月）</p> <p>マルハニチロ株式会社が発行する本邦初のブルーボンドに4億円を投資しました。ブルーボンドとは、調達された資金の使い道が、海洋生態系の保護や持続可能な水資源の利用といった、海洋・水関連の環境保護プロジェクトに限定される債券です。当債券発行による調達資金は、環境持続型の漁業・養殖事業に充当されます。</p>	<p>関係の深いSDGs目標</p>  <p>提供：マルハニチロ株式会社</p>
<p>ソーシャルボンドへの投資（2020年10月）</p> <p>国立大学法人東京大学が発行するソーシャルボンドに18億円を投資しました。当債券による調達資金は、SDGsの達成に資するさまざまな研究教育プロジェクトに充当され、「ポストコロナ時代の新しいグローバル戦略を踏まえた研究」にかかる最先端大型研究施設の整備などに活用されます。</p>	<p>関係の深いSDGs目標</p>  <p>提供：東京大学 TAO プロジェクト</p>